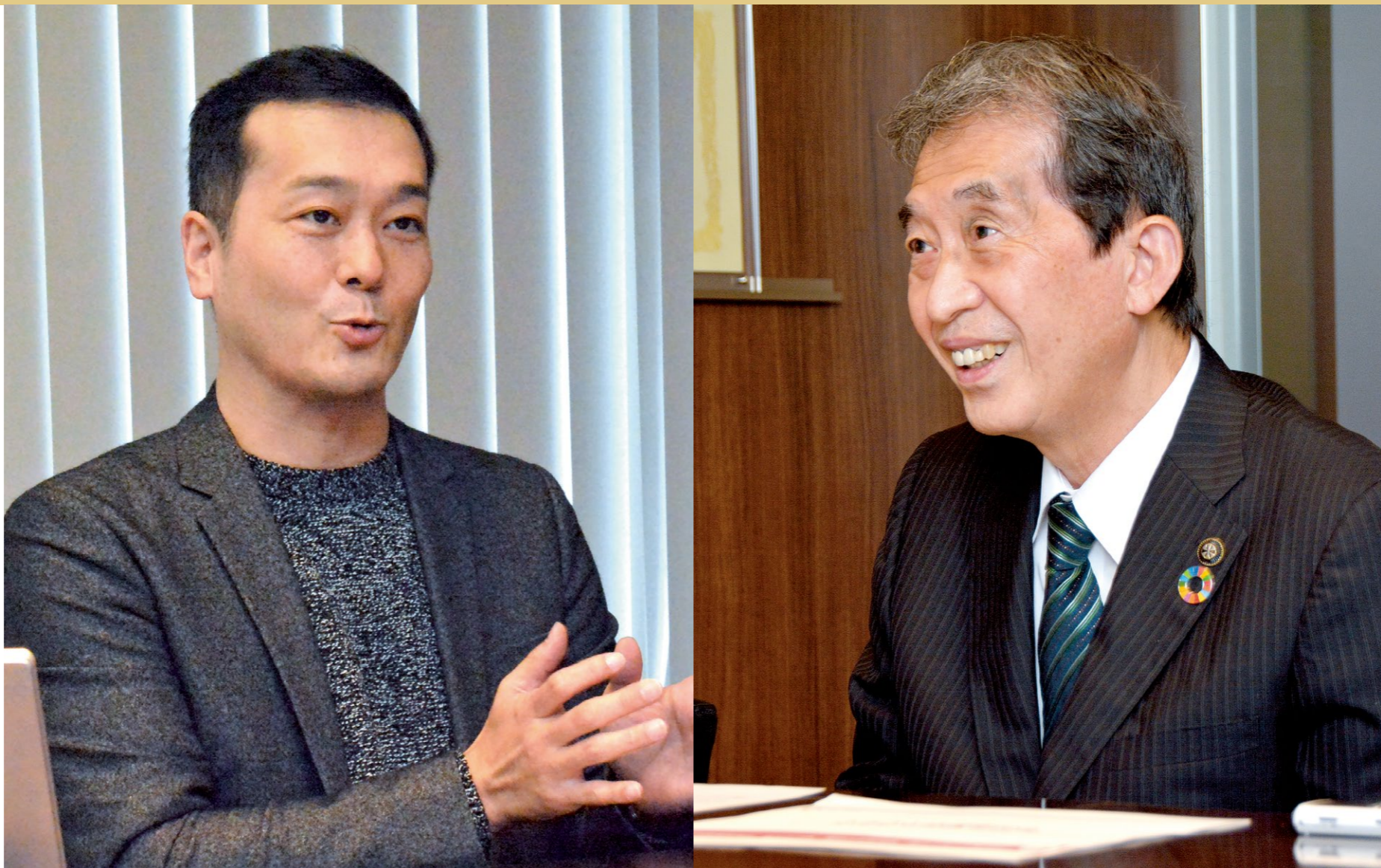




2023 新春対談

ふるさと納税の総合サイト「ふるなび」を運営している株式会社アイモバイル（東京都）の代表取締役会長である田中俊彦さんは、国立舞鶴工業高等専門学校卒業生です。常にさまざまな分野に関心を持ち、新たなステージに挑戦し続けてきた田中さん。そんな仕事への思いをもつ田中さんから、将来仕事に就く子ども達が目標の実現に向け努力することの大切さを伺いました。



舞鶴市長 多々見良三

人生は自分が切り拓くゲーム 楽しんで

市長 田中さんは、アイモバイル株式会社の会長として活躍ですが、舞鶴高専を卒業されて、今日までどのような歩んでこられたのか、お仕事に対する思いなどを聞かせていただけませんか。また、中学生まで京都市に住んでおられたのに、なぜ進学先として舞鶴高専を選ばれたのでしょうか。

田中 舞鶴高専を選んだ理由は、地元を出て早く親離れをして、一人暮らしがしたかったからです。京都・舞鶴間は、遠すぎずちょうど良い距離です。国立なので学費のことが親に大きな迷惑を掛けることがないと思いました。高専の勉強は難しいと聞いていましたが、勉強を頑張れば一人暮らしができると思って選びました。

市長 経済的な援助を親に頼る人が多い中、早く親から離れて一人暮らしがしたいと考えられたんですね。その「根っこ」は、何ですか。

田中 親の近くにいると「勉強しろ」とか「ああしろ、こうしろ」と言われますよね。私の家では帰宅が遅くなるのはダメといった空気もあったので、早く立ち立たいと考えたことが根底にありました。エンジンについて勉強したかったことも理由のひとつです。

市長 高専を進路に選択されたのは、ご両親の勧めですか。

田中 エンジンに興味があると父に話したところ「高専で勉強するのが良い」と勧められました。当時は、就職氷河期で、目標を失ったということですか。

市長 そうなんです。目標としていた機械工学の分野はあきらめましたが、目標を持つことの大切さは、分かっていたんです。

市長 目標を持つことは大事ですよ。私は、市内の中学2年生を対象に出前講座をしています。中学校を訪問し、夢や志を持つことの大切さや舞鶴の魅力を説明するんです。中学2年生であれば、もう将来を見据えて、どんな仕事について、どのように頑張るかを考えるべきだと思います。

田中 そのとおりだと思います。軸があると進むべき方向

河期といわれた時期でしたが、高専に行けば就職率は100%だといわれていて「高専は何て良い学校だろう」と思いました。

市長 高専では、学生寮に入られたのですか。

市長 学生時代に勉強一筋の人もあるし、ほどほどに勉強する人、勉強以外のことに精を出す人もいます。田中さんは、どんな学生でしたか。

田中 「勉強する学生」ではなかったですね。言い方は悪いですが、できるだけ勉強せずに進級できる方法を考えていました。難しすぎる勉強は敬遠して、自分の持っている学力を、どのように投入するの

が効率的なのかを考えました。

市長 そういった割り切りは、今の人生にも生かせているのですか。

田中 はい、すごく生きています。学生のミッションは進級することです。ミッションをどうしたら効率よくクリアするかを考える能力は、そのころからあったと思います。

市長 多くの努力もされた

株式会社アイモバイル 代表取締役会長

田中俊彦

田中俊彦さんプロフィール

1979年、京都市生まれ。国立舞鶴工業高等専門学校卒業後、情報通信系企業、広告代理店を経て、インターネットの市場の広がりから、モバイル事業の起業を計画。2007年に㈱アイモバイルを設立。モバイルに特化したインターネット広告事業を展開し、国内最大級のアドネットワーク規模へと成長させた。さらに、卓越した先見性により事業の兆しをとらえ、ふるさと納税事業にも参入。業界の先駆者として活躍している。

